

言語学概論 FALL 2016 #10 / 大阪大谷大学

言語と思考・文化

言語と文化・思考

- しゃべっている言語が、私たちがどのように考えるかを決めているのだろうか？
- それともその逆？
- それとも、関係ない？

サピア・ウォーフ仮説

言語

思考

認知言語学

認知言語学

- 言語には人間の認識の仕方が現れている（という面を重視する）考え方
- 認識の仕方は、文化によって違うとは限らないが、もし文化によって認識の仕方が違えば、言語にその違いが現れるはず。

サピア・ウォーフ仮説

- 言語が思考を決定する（あるいは、少なくとも影響する）という考え方。
- We dissect nature along lines laid down by our native language. (Whorf 1940) 「我々は母語によって引かれた線によって自然を区切る」
- 言語相対性ともいう

語彙と文化

びん と BOTTLE

「恣意性」

ペットボトル

びん



bottle

jar

エスキモーと雪

- エスキモーには「雪」を表す言葉が無数にある
- 嘘だという説もある

サピア・ウォーフ仮説

- 魚や米の例は、サピア・ウォーフ仮説を示す例でしょうか？

色彩語彙

色彩語彙

ベリンモ語
(パプアニューギニア)

英語

- 白（明るい色全般）と黒（暗い色全般）の2色しかない言語もある（例：ダニ語/インドネシア）

色彩語彙

- 言語によって世界の切り分け方は無限に違うのだろうか

色彩語彙

- 色彩語彙の普遍性
- 例えば、ある言語に色彩語彙が3つしかないなら、必ず**白、黒、赤**。4色目があるなら必ず**緑か黄**。
- 「赤」のない言語の話者でも、赤色は他の色よりよく覚えられる

じつは、信号の色は本当に違う

- 言語が現実を変えてしまった珍しい(?)例

色彩語彙

- 色彩語彙は、はじめ「言語が世界を切りわけける」例だと思われていた
- 実際には、色彩語彙には普遍性があり、認知が切りわけ方に大きく関わっていることがわかった
- しかし、言語がカテゴリーの認識に影響し、(信号の例のように)それが現実を変えてしまうケースも

もしも「右」や「左」がなかったら

- 人と木ゲーム

- 絶対指示枠
- 相対指示枠
- 固有指示枠

- 人と木ゲームで人と木の位置関係を説明するときに
 - 相対指示棒を使う言語：日本語、オランダ語
 - 固有指示棒を使う言語：ギリヴィラ語（オーストロネシア）、モパン語（マヤ）
 - 絶対指示棒を使う言語：アラング語（パマ・ニュンガン）、ツェルタル語（マヤ）

- 言語の特徴は認識に影響を与えているか？

- グウグ・イミディール語（オーストラリア）の人達の方向感覚
- 動物並べゲーム

文法と思考・文化

- 語彙が文化と関わりがあるのはわかった。
- 文法は文化と関わりがあるか？
 - たとえば語順は文化と関係するか？
 - 単語が複雑な活用をする言語と、単語が形を変えない言語。文化の違いがあるのか？

- 多くの言語学者は、懐疑的。（19世紀から、言語と文化の進歩程度などについて多くの憶測がなされたが、データによって裏付けが得られなかった反省から）
- ひょっとしたら、多少は関係があるかもしれない。

- 同様に、怪しい（？）主張
 - 「英語は単数形と複数形を区別しなければいけない。英語話者のほうが数の感覚にすぐれている」
 - 「フランス語は男性名詞と女性名詞がある。フランス語話者のほうが性の違いに敏感。」
 - 「日本語は主語を省略できる。否定が最後にくるので結論がわからない。日本文化のあいまい性を表している。」

- しかし
 - 日本語には敬語がある
 - 日本には、上下関係を気にする文化がある（ように思える）

サピア・ウォーフ仮説は正しいの？

- 結論は煮え切らない
 - どちらかという、言語が勝手に世界を区切るわけではない。むしろ、言語は、我々の認識や文化の結果である
 - しかし言語は、微妙なケースのカテゴライズや理解の仕方など、時として判断に影響は与えるかもしれない

リアクションペーパー

- 「魚」や「米」の例のように、文化と密接に結びついているために沢山の言葉がある例は他にもあるでしょうか。日本語の例でもいいし、他の言語でもかまいません。
- そのほか、感想・コメントを書いてください。